
長野県農業生産努力目標



平成 1 3 年 6 月

長野県農政部

「長野県農業生産努力目標」について

1 目標の策定にあたって

(1) 本県農業の現状

本県は変化に富んだ気象・立地条件を巧みに生かした生産者のたゆまぬ努力により、園芸作物を中心に全国有数の農業県へと発展し、その農業粗生産額は全国8位(平成11年度)となっており、多くの品目で日本一の生産量を誇っています。

しかしながら、近年の食生活の多様化や不透明な景気動向、輸入農産物の大幅な増加などに加え、農業者の減少と高齢化が進み、農業生産力の低下が見受けられます。

(2) 長野県農業生産努力目標の策定

農林水産省では、「食料・農業・農村基本法」に基づく「食料・農業・農村基本計画」を平成12年3月に策定しました。

この計画において、2010年の国の食料自給率目標を45%に定め、その実現に向け、食生活指針に沿った望ましい食生活の推進や、食料の自国生産への国民理解の下に国内農業生産の拡大を目指すこととしており、県段階においても、農業生産努力目標の策定を促進することとしています。

このため、本県農業の一層の振興を図るとともに、自給率向上をめざして、本県においても2010年を目標とした「長野県農業生産努力目標」を策定します。

(3) 努力目標の実現に向けて

「長野県農業生産努力目標」の実現に向けて、「長野県農業長期ビジョン」に即し、担い手の育成や生産体制の整備、経営安定対策をはじめとした各種の農業施策を積極的に推進します。

また、特に、生産拡大と併せ、農畜産物の高付加価値化や地産地消の取り組みを促進し、県産農産物の消費拡大を図ります。

2 長野県農業生産努力目標の概要

(1)趣 旨 本県農業の一層の振興及び食料自給率向上に向けての取り組みをより着実に推進するため、長野県における農業生産努力目標を策定します。

(2)目標年次 平成22年度(2010年度)

(3)策定方針 米、野菜、果樹、花き、畜産などの主要品目毎に、生産性の向上や品質の向上等の面で取り組むべき課題を明確化し、実現可能な農業生産の水準を「努力目標」として定めます。

なお、果樹については「長野県果樹農業振興計画」と、また、畜産関係については「長野県酪農・肉用牛生産近代化計画」、「長野県家畜・鶏改良増殖計画」及び「長野県飼料増産推進計画」との整合を図るものとします。

また、花きは、食料自給率の向上には直接関係ないものの、本県の主要な農業生産物であることから策定の対象とします。

(4)内 容

- ア 主要品目毎の作付面積
- イ 主要品目毎の単位当たりの収量
- ウ 主要品目毎の生産量
- エ 生乳、肉類及び鶏卵の生産に必要な飼養頭羽数
- オ ア～エに関係する課題と今後の方向及び主な指標

(5)そ の 他 この農業生産努力目標は、国の「食料・農業・農村基本計画」の見直しに合わせ、おおむね5年ごとに所要の見直しを行います。

長野県農業長期ビジョン

～ 21世紀にきらめく信州農業へのデザイン～

1 個性が輝く信州農業の創造

1) 地域農業を支える人づくり・組織づくり

幅広く就農者を確保するとともに、農業経営基盤の強化や経営の法人化を進めます。また、意欲的な経営体とともに兼業農家や高齢農家を含めて地域全体で効率的な農業を展開する地域営農システムの構築をめざします。

2) 働きやすい生産基盤づくり

優良農地の確保と有効利用を推進するとともに、土地基盤整備や農業用水の効率的な利用を促進し、生産性の高い農業の展開をめざします。

3) 消費者に愛される信州ブランドづくり

新技術の積極的な導入と産地体制の強化、鮮度・品質・安全性を重視した農産物の生産により、活力と個性ある産地づくりを進めます。また、ニーズを踏まえた積極的なマーケティングを展開します。

2 魅力ある農村社会の建設

1) 環境と共生する信州農業づくり

農業生産等による環境への負荷を極力軽減し、環境と調和した農業・農村づくりを進めるとともに、農地の遊休化を防ぐ取り組みや自主的な農村景観の保全活動を通じた公益的機能の維持・増進に努めます。

2) 住み良い農村づくり

生活環境施設の計画的な整備や生き生きとした地域づくりを進め、農村の良さを生かした潤いのある生活空間としての農村づくりを進めます。

3) ふるさとの香りあふれる郷づくり

立地条件を生かした農業の振興や地域産業と連携した農産物の付加価値の向上、農業者の起業による経営の多角化、多様な交流を推進し、総合的な所得の確保と中山間地域の活性化をめざします。

長野県農業生産努力目標値

区 分	1998年(平成10年、基準年)			1999年(平成11年)			2010年目標(平成22年)				
	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生 産 量 (t)	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生 産 量 (t)	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生 産 量 (t)	10年 対 比	
水 稻	37,500	579	217,100	37,300	624	232,800	36,700	610	223,870	103	
麦	1,390	346	4,808	1,580	379	5,970	2,130	420	8,940	186	
大 豆	2,890	187	5,400	2,920	181	5,285	3,100	284	8,796	163	
そ ば	2,430	58	1,410	2,370	78	1,849	2,600	140	3,640	258	
雑 穀 等	1,046	95	998	1,022	95	969	1,000	95	948	95	
果 樹	17,612	1,514	266,700	17,436	1,737	302,900	17,120	1,920	329,500	124	
りんご	9,660	1,705	164,700	9,450	2,102	198,600	8,700	2,360	205,300	125	
ぶどう	2,470	1,267	31,300	2,490	1,305	32,500	2,700	1,450	39,200	125	
なし	1,312	2,277	29,870	1,313	2,272	29,830	1,370	2,500	34,300	115	
もも	1,380	1,754	24,200	1,390	1,504	20,900	1,400	1,900	26,600	110	
その他	2,790	596	16,630	2,793	754	21,070	2,950	817	24,100	145	
野 菜	32,448	2,837	920,675	32,088	2,789	894,983	32,390	3,344	1,083,000	118	
レタス	7,699	2,836	218,324	7,733	2,904	219,479	7,600	3,384	257,200	118	
はくさい	3,397	6,886	233,900	3,431	7,145	245,127	3,480	8,000	278,400	119	
キャベツ	1,990	4,554	90,624	1,936	4,185	81,018	2,100	5,000	105,000	116	
セルリー	429	4,014	17,219	423	4,111	17,391	430	5,000	21,500	125	
トマト	570	5,614	32,000	567	5,015	28,437	620	7,065	43,800	137	
きゅうり	647	4,594	29,725	656	4,531	29,725	700	6,000	42,000	141	
すいか	557	5,741	31,979	558	4,957	27,662	580	5,800	33,640	105	
アスパラガス	2,427	338	8,202	2,393	239	5,725	2,600	600	15,600	190	
その他	14,732	1,756	258,702	14,391	1,671	240,419	14,280	2,002	285,860	110	
花 き	1,212	本・鉢/10a	千本・千鉢	1,167	本・鉢/10a	千本・千鉢	1,400	本・鉢/10a	千本・千鉢	-	
キク	253	32,104	81,175	244	32,282	78,784	256	35,000	89,600	110	
カーネーション	108	120,970	130,490	107	126,522	135,050	113	132,000	149,160	114	
リンドウ	92	26,170	24,042	84	25,250	21,245	93	33,848	31,479	131	
トルコギキョウ	66	35,396	23,372	67	32,934	21,990	90	36,255	32,630	140	
スターチス	62	37,029	22,858	50	45,247	22,456	64	47,798	30,591	134	
ユリ	70	21,179	14,819	63	20,136	12,736	100	23,865	23,865	161	
アルストロメリア	28	70,706	20,038	27	82,909	21,971	35	100,810	35,284	176	
バラ	20	82,394	16,487	18	82,460	14,546	21	99,624	20,921	127	
シクラメン	24	10,286	2,518	24	11,133	2,643	28	10,548	2,953	117	
その他	489	-	-	483	-	-	600	-	-	-	
きのこ	-	-	109,930	-	-	114,028	-	-	119,500	109	
えのきたけ	-	-	63,290	-	-	65,950	-	-	69,600	110	
ぶなしめじ	-	-	45,940	-	-	46,700	-	-	46,700	102	
その他	-	-	700	-	-	1,378	-	-	3,200	457	
飼料作物	10,304	4,990	514,200	10,098	5,122	517,200	11,700	5,250	614,600	120	
区 分	飼養頭羽数 (頭・千羽)		生産量 (t)	飼養頭羽数 (頭・千羽)		生産量 (t)	飼養頭羽数 (頭・千羽)		生産量 (t) 10年 対 比		
畜 産	生 乳		33,100	168,049	31,900		163,436	30,410		190,888	114
	牛 肉		43,200	8,557	42,100		8,562	49,610		10,060	118
	豚 肉		112,200	15,529	114,000		14,822	112,910		16,376	105
	鶏 卵		1,144	15,590	1,110		15,144	1,064		15,698	101

作目別の課題と今後の方向

土地利用型作物の振興

需要に応じた米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。

水稻の生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	37,500	579	217,100
平成11年度	37,300	624	232,800
平成22年度	36,700	610	223,870

課題と今後の方向

- * 需要に応じた高品質・良食味米の計画的生産
 - ・ 適地適作を基本に、コシヒカリを中心とした、あきたこまち、ひとめぼれ等の良食味で有利販売が可能な品種への転換
 - ・ 施肥改善等による食味などの向上
- * 低コスト・省力化技術の普及拡大
 - ・ 効率的な水田利用による経営体の育成
 - ・ 直播栽培等の低コスト技術の普及促進
- * 長野県の特徴を活かした需要拡大対策の推進
 - ・ 低農薬栽培米や新形質米等の付加価値化による有利販売の展開
 - ・ 県内実需者への重点・安定供給
 - ・ 学校給食等への利用拡大

麦の生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	1,390	346	4,808
平成11年度	1,580	379	5,970
平成22年度	2,130	420	8,940

課題と今後の方向

- * 実需者ニーズに対応した生産の推進
 - ・ 基本技術の励行による品質と単収の向上
 - ・ 水田における穀物複合経営の推進
 - ・ 大麦（シュンライ、ファイバースノウ）を中心とした作付面積の拡大
- * 低コスト・省力化技術の普及拡大
 - ・ 水田の汎用化を進めるための基盤整備の促進
 - ・ 団地化による機械化体系の推進

大豆の生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	2,890	187	5,400
平成11年度	2,920	181	5,285
平成22年度	3,100	284	8,796

課題と今後の方向

- * 生産ロットの拡大及び品質の安定化
 - ・ 実需者ニーズの的確な把握と用途別・需要別の産地育成
 - ・ 水田における穀物複合経営の推進
 - ・ 基本技術の励行による品質と単収の向上
 - ・ 乾燥調整施設整備の推進
- * 低コスト・省力化技術の普及拡大
 - ・ 水田の汎用化を進めるための基盤整備の促進
 - ・ 団地化による機械作業体系の推進
- * 消費拡大の推進
 - ・ 地場加工等の促進による地場消費の拡大

そばの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	2,430	58	1,410
平成11年度	2,370	78	1,849
平成22年度	2,600	140	3,640

課題と今後の方向

- * 生産ロットの拡大及び品質の安定化
 - ・ 基本技術の励行による品質と単収の向上
 - ・ 水田における穀物複合経営の推進
 - ・ 乾燥調整施設整備の推進
- * 低コスト・省力化技術の普及拡大
 - ・ 水田の汎用化を進めるための基盤整備の促進
 - ・ 団地化・集団化による産地体制整備及び機械化体系の普及・定着
- * 消費拡大の推進
 - ・ 地場加工等の促進による地場消費の拡大

果樹の振興

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に、新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

りんごの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	9,660	1,705	164,700
平成11年度	9,450	2,102	198,600
平成22年度	8,700	2,360	205,300

課題と今後の方向

- * 担い手の高齢化に対応した栽培環境の改善
 - ・ 新たな低樹高栽培による省力化・軽作業化の促進
 - ・ 省力化・機械化のための研究開発と普及促進
- * 特定品種への偏り並びに低位生産園の解消
 - ・ 中生種の比重を高めることによる品種構成の適正化
 - ・ 県オリジナル品種の生産拡大
 - ・ 低位生産園の再整備及び改植等による優良系統への転換
- * 販売環境の改善
 - ・ 消費者ニーズに対応した生産の推進
 - ・ 光センサー選果を活用した高品質保証販売の推進と生産技術の高位平準化
 - ・ 「機能性」を活かした消費拡大対策の推進

ぶどうの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	2,470	1,267	31,300
平成11年度	2,490	1,305	32,500
平成22年度	2,700	1,450	39,200

課題と今後の方向

- * 生産技術の向上による安定生産
 - ・ 適正着果による良品生産の推進
 - ・ 優良系巨峰及び優良新品種の導入と施設化の推進
- * 販売環境の改善
 - ・ 消費者ニーズに対応した生産の推進
 - ・ ワイン等新たな加工・流通・消費による需要の拡大

なしの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	1,312	2,277	29,870
平成11年度	1,313	2,272	29,830
平成22年度	1,370	2,500	34,300

課題と今後の方向

- * 生産技術の向上による安定生産
 - ・ 「南水」の生産拡大と生産技術の高位平準化、新産地の形成
 - ・ 「幸水」の安定生産と品質向上
 - ・ 「二十世紀」の生産維持
- * 販売環境の改善
 - ・ 品種間・産地間の出荷時期の調整によるリレー出荷の推進
 - ・ 光センサー選果による高品質保証販売の推進
 - ・ 予冷冷蔵施設の整備による出荷期間の延長

ももの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	1,380	1,754	24,200
平成11年度	1,390	1,504	20,900
平成22年度	1,400	1,900	26,600

課題と今後の方向

- * 担い手の高齢化に対応した栽培環境の改善
 - ・ 新たな低樹高栽培による省力化・軽作業化の促進
 - ・ 省力化・機械化のための研究開発と普及促進
- * 品質の安定した果実の供給
 - ・ 優良新品種の導入
 - ・ 光センサー選果による高品質保証販売の推進と生産技術の高位平準化

野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさいなどの葉野菜を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

レタスの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	7,699	2,836	218,324
平成11年度	7,733	2,904	219,479
平成22年度	7,600	3,384	257,200

課題と今後の方向

- * 作付偏重及び出荷集中の解消による価格安定
 - ・ 産地別(標高別)・時期別適正安定生産の推進
 - ・ 出荷計画の精度向上と需給調整機能の強化
- * 気象変動及び連作障害による土壌病害等の克服
 - ・ 気象変動に対応可能な生産基盤の整備
 - ・ 気象変動に左右されない栽培基本技術の徹底
 - ・ レタス根腐病総合防除対策の確立(輪作体系の確立、抵抗性品種の育成、発病抑制技術の開発)
- * 担い手の高齢化等に対応した生産・流通体制の整備
 - ・ 省力栽培技術及び省力機械(収穫機等)の開発と普及
 - ・ コンテナ流通の拡大
- * 多様化するニーズに対応した生産体制の整備
 - ・ 契約取引(業務加工用等)の拡大による価格安定

はくさいの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (k g / 10 a)	生 産 量 (t)
平成10年度	3,397	6,886	233,900
平成11年度	3,431	7,145	245,127
平成22年度	3,480	8,000	278,400

課題と今後の方向

- * 気象変動及び連作障害による土壌病害等の克服
 - ・ 気象変動に対応可能な生産基盤の整備
 - ・ 基本技術の徹底による商品性の向上
 - ・ 土壌病害の総合的防除(異科作物との輪作、抵抗性品種の利用等)
- * 担い手の高齢化等に対応した生産・流通体制の整備
 - ・ 省力栽培技術及び省力機械(収穫機等)の開発と普及
 - ・ コンテナ流通の拡大
- * 多様化するニーズに対応した生産体制の整備
 - ・ 契約取引(業務加工用等)の拡大による価格安定

キャベツの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	1,990	4,554	90,624
平成11年度	1,936	4,185	81,018
平成22年度	2,100	5,000	105,000

課題と今後の方向

- * 基幹品目としての生産拡大
 - ・ 輪作作物(土壌病害対策)としての栽培促進
- * 担い手の高齢化等に対応した生産・流通体制の整備
 - ・ 省力栽培技術及び省力機械(収穫機等)の開発と普及
 - ・ コンテナ流通の拡大
- * 多様化するニーズに対応した生産体制の整備
 - ・ 契約取引(業務加工用等)の拡大による価格安定

セルリーの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	429	4,014	17,219
平成11年度	423	4,111	17,391
平成22年度	430	5,000	21,500

課題と今後の方向

- * 生産量全国一の継続
 - ・ 施設化による春・秋作の生産拡大
 - ・ 主産地を補完する新産地の育成
- * 連作障害による土壌病害等の克服及び環境にやさしい農業の推進
 - ・ 耐病性・耐暑性品種の育成
 - ・ 側条施肥と養液土耕栽培の導入
- * 多様化するニーズに対応した生産体制の整備
 - ・ 契約取引(業務加工用等)の拡大による価格安定

トマトの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	570	5,614	32,000
平成11年度	567	5,015	28,437
平成22年度	620	7,065	43,800

課題と今後の方向

- * 生産拡大に向けての体制整備
 - ・ 優良苗供給体制の確立
 - ・ 省力化技術(養液土耕栽培)の導入
 - ・ ハウスリースによる施設化の推進
- * 環境にやさしい農業の推進
 - ・ 天敵を利用した害虫防除の推進

きゅうりの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	647	4,594	29,725
平成11年度	656	4,531	29,725
平成22年度	700	6,000	42,000

課題と今後の方向

- * 生産拡大に向けての体制整備
 - ・ 優良苗供給体制の確立
 - ・ 省力化技術(養液土耕栽培)の導入

すいかの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	557	5,741	31,979
平成11年度	558	4,957	27,662
平成22年度	580	5,800	33,640

課題と今後の方向

- * 生産拡大に向けての体制整備
 - ・ 優良苗供給体制の確立
 - ・ 総合生産安定対策（輪作、病害虫防除等）

アスパラガスの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (t)
平成10年度	2,427	338	8,202
平成11年度	2,393	239	5,725
平成22年度	2,600	600	15,600

課題と今後の方向

- * 持続的な産地体制の整備
 - ・ 転作作物としての導入拡大
 - ・ 優良系統の選抜、改植の推進
 - ・ 雨よけ・養液土耕栽培の推進
 - ・ 出荷作業の省力化と労力補完

花きの振興

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

キクの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生産量 (千本)
平成10年度	253	32,104	81,175
平成11年度	244	32,282	78,784
平成22年度	256	35,000	89,600

課題と今後の方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 施設化の推進による作期の拡大・良品生産
 - ・ 7～10月の市場占有率の堅持と盆・彼岸期の物量確保
 - ・ 産地ごとの無側枝性キクの品種集約と同一品種の長期出荷
 - ・ 機械化・省力化による低コスト栽培の推進
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

カーネーションの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生産量 (千本)
平成10年度	108	120,970	130,490
平成11年度	107	126,522	135,050
平成22年度	113	132,000	149,160

課題と今後の方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 作型分散による1番花の集中出荷の回避
 - ・ 9～11月の安定出荷体制の拡大(秋1回切り作型の推進)
 - ・ 優良基幹品種の作付拡大
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

リンドウの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	92	26,170	24,042
平成11年度	84	25,250	21,245
平成22年度	93	33,848	31,479

課題と今後の方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 水田転作による作付の推進
 - ・ 優良系統、品種の作付及び長期出荷の推進
 - ・ 中山間地等の新産地の育成
 - ・ セル成型苗利用技術による生産性の向上
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

トルコギキョウの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	66	35,396	23,372
平成11年度	67	32,934	21,990
平成22年度	90	36,255	32,630

課題と今後の方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 6月～11月までの高品質安定生産の推進
 - ・ 冷房育苗等による抑制作型（9～11月出荷）の拡大及び短日処理による品質向上
 - ・ 加温電照による促成作型（5～6月出荷）の推進
 - ・ 県内オリジナル品種の作付推進
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

スターチスの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	62	37,029	22,858
平成11年度	50	45,247	22,456
平成22年度	64	47,798	30,591

課題と展開方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 計画出荷による集中出荷の回避
 - ・ 培養苗利用による周年生産の推進
 - ・ 優良種苗の安定供給
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

ユリの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	70	21,179	14,819
平成11年度	63	20,136	12,736
平成22年度	100	23,865	23,865

課題と展開方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 既存産地での生産拡大
 - ・ 球根冷蔵等による長期出荷の推進
 - ・ 早生～晩生（特に秋）の計画生産の推進
 - ・ 機械定植による省力化と規模拡大
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

アルストロメリアの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	28	70,706	20,038
平成11年度	27	82,909	21,971
平成22年度	35	100,810	35,284

課題と展開方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 既存産地での生産拡大
 - ・ 地中冷却栽培の積極的導入
 - ・ 色バランス等を考慮した品種構成の推進
 - ・ 秋初冬期の生産拡大
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

バラの生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (本/10a)	生 産 量 (千本)
平成10年度	20	82,394	16,487
平成11年度	18	82,460	14,546
平成22年度	21	99,624	20,921

課題と展開方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 生産性の向上による低コスト生産の推進
 - ・ 夏秋切りものの品質向上
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

シクラメンの生産努力目標

区 分	作 付 面 積 (h a)	単 収 (鉢 / 10 a)	生 産 量 (千 鉢)
平成 1 0 年度	2 4	1 0 , 2 8 6	2 , 5 1 8
平成 1 1 年度	2 4	1 1 , 1 3 3	2 , 6 4 3
平成 2 2 年度	2 8	1 0 , 5 4 8	2 , 9 5 3

課題と展開方向

- * 個性と活力ある産地づくりの推進
 - ・ 需要の多様化に対応した配色、品種構成、鉢サイズの確保
 - ・ 適正な栽培管理による商品性の向上と計画生産の推進
 - ・ ローテーション品目、複合品目による施設の効率利用
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

きのこの振興

品質・コスト管理の徹底や省力技術、新品目等の普及・開発により、きのこ農家の経営安定を図り、競合産地に負けない新鮮で高品質なきのこ産地づくりを推進する。

えのきたけの生産努力目標

区 分	生 産 量 (t)
平成10年度	63,290
平成11年度	65,950
平成22年度	69,600

課題と今後の方向

- * 経営安定に向けての生産体制の整備
 - ・ 分業生産システム等の推進や生産出荷施設等の整備による生産基盤の強化
 - ・ 作業体系の見直し、省力技術の開発による生産コストの低減
 - ・ 新品種、新技術の開発・普及
 - ・ 経営指導体制の強化
 - ・ 健康・機能的食品等新しいニーズによる加工製品の開発・普及
 - ・ 不需要期（3月から8月）を中心とした消費拡大対策の推進
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

ぶなしめじの生産努力目標

区 分	生 産 量 (t)
平成10年度	45,940
平成11年度	46,700
平成22年度	46,700

課題と今後の方向

- * 経営安定に向けての生産体制の整備
 - ・ 分業生産システム等の推進や生産出荷施設等の整備による生産基盤の強化
 - ・ 作業体系の見直し、省力技術の開発による生産コストの低減
 - ・ 新品種、新技術の開発・普及
 - ・ 経営指導体制の強化
 - ・ 健康・機能的食品等新しいニーズによる加工製品の開発・普及
 - ・ 不需要期（3月から8月）を中心とした消費拡大対策の推進
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進

畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

生乳の生産努力目標

区 分	飼 養 頭 数 (頭)	生 産 量 (t)
平成10年度 (基準年)	33,100	168,049
	経産牛 23,700	
平成11年度	31,900	163,436
	経産牛 23,100	
平成22年度	30,410	190,888
	経産牛 22,300	

課題と今後の方向

- * 効率的かつ安定的な経営体の育成と新たな担い手の確保
 - ・ 省力的な飼養管理方式の導入及び経営実態に応じた飼養規模の拡大
 - ・ ゆとりある経営のための酪農ヘルパー等支援組織の育成・活用
 - ・ 円滑な経営継承のための積極的な支援
- * 高品質な生乳生産と生産コストの低減
 - ・ 生産管理技術の高度化による乳量・乳質の向上
 - ・ 乳用牛の能力向上と自給飼料の増産等による生産コストの低減
 - ・ 生産段階での衛生管理ガイドラインの導入・普及による衛生水準の向上と安全性の確保
- * 信州産牛乳・乳製品の消費拡大
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進
 - ・ 報道媒体及びイベント等を活用した情報提供や知識の普及と効果的な消費宣伝の実施
- * 家畜排せつ物の適正な処理と利用の促進
 - ・ 家畜排せつ物処理施設・機械の計画的な整備の促進と適正処理の推進
 - ・ 堆肥の流通体制の整備と広域的利用の推進

牛肉の生産努力目標

区 分		飼 養 頭 数 (頭)	生 産 量 (t)
平成10年度 (基準年)		43,200	8,557
	肉専用種	18,200	
	交雑種・乳用種	20,800	
	繁殖雌牛	4,200	
平成11年度		42,100	8,562
	肉専用種	17,580	
	交雑種・乳用種	20,600	
	繁殖雌牛	3,920	
平成22年度		49,610	10,060
	肉専用種	29,800	
	交雑種・乳用種	13,622	
	繁殖雌牛	6,188	

注) 乳用牛等の廃用牛は含まない。

課題と今後の方向

- * 効率的かつ安定的な経営体の育成と新たな担い手の確保
 - ・ 省力的な飼養管理方式の導入及び経営実態に応じた飼養規模の拡大
 - ・ ゆとりある経営のための肉用牛ヘルパー等支援組織の育成・活用
 - ・ 円滑な経営継承のための積極的な支援
- * 高品質な牛肉生産と生産コストの低減
 - ・ 優秀な種雄牛の造成、優良な肥育素牛の増産と県内保留の推進、及び受精卵移植技術の活用等による県産肉用牛の品質向上と生産拡大
 - ・ 肥育経営における飼料給与方法の改善と肥育期間の適正化等による生産コストの低減
 - ・ 繁殖経営における自給飼料の増産と分娩間隔の短縮などによる生産コストの低減
 - ・ 生産段階での衛生管理ガイドラインの導入・普及による衛生水準の向上と安全性の確保
- * 信州産牛肉の消費拡大
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進
 - ・ 報道媒体及びイベント等を活用した情報提供や知識の普及と効果的な消費宣伝の実施
- * 家畜排せつ物の適正な処理と利用の促進
 - ・ 家畜排せつ物処理施設・機械の計画的な整備の促進と適正処理の推進
 - ・ 堆肥の流通体制の整備と広域的利用の推進

豚肉の生産努力目標

区 分	飼 養 頭 数 (頭)	生 産 量 (t)
平成10年度 (基準年)	112,200	15,529
	繁殖豚 11,500	
平成11年度	114,000	14,822
	繁殖豚 11,400	
平成22年度	112,910	16,372
	繁殖豚 10,610	

課題と今後の方向

- * 効率かつ安定的な経営体の育成と新たな担い手の確保
 - ・ 経営実態に応じた飼養規模の拡大
 - ・ 円滑な経営継承のための積極的な支援
- * 高品質な豚肉生産と生産コストの低減
 - ・ シンシュウL等高能力で斉一性の高い種豚の普及による県産豚の品質向上
 - ・ SPF豚の生産拡大、並びに人工授精技術の普及等による生産コストの低減
 - ・ 生産段階での衛生管理ガイドラインの導入・普及による衛生水準の向上と安全性の確保
- * 信州産豚肉の消費拡大
 - ・ 銘柄豚の生産と県民への安心・安全な食肉の安定供給のための処理施設の整備
 - ・ 新たなマーケティング戦略による新規需要の開拓など消費拡大対策の推進
 - ・ 報道媒体及びイベント等を活用した情報提供や知識の普及と効果的な消費宣伝の実施
- * 家畜排せつ物の適正な処理と利用の促進
 - ・ 家畜排せつ物処理施設・機械の計画的な整備の促進と適正処理の推進
 - ・ 堆肥の流通体制の整備と広域的利用の推進

鶏卵の生産努力目標

区 分	飼 養 羽 数 (千羽)	生 産 量 (t)
平成10年度 (基準年)	1,144	15,590
	成 鶏 889	
平成11年度	1,110	15,144
	成 鶏 817	
平成22年度	1,064	15,698
	成 鶏 827	

課題と今後の方向

- * 効率的かつ安定的な経営体の育成
 - ・ 需給の均衡と価格安定のための計画生産の一層の推進
- * 高品質な卵生産と生産コストの低減
 - ・ 消費・流通ニーズに対応した品質の向上と付加価値の高い鶏卵の生産推進
 - ・ 飼料給与方法の改善等による生産コストの低減
 - ・ 生産段階での衛生管理ガイドラインの導入・普及による衛生水準の向上と安全性の確保
- * 家畜排せつ物の適正な処理と利用の促進
 - ・ 家畜排せつ物処理施設・機械の計画的な整備の促進と適正処理の推進
 - ・ 堆肥の流通体制の整備と広域的利用の推進

飼料作物の生産努力目標

区 分	作付面積 (ha)	単 収 (kg/10a)	生産量 (千t)
平成10年度 (基準年)	10,304	4,990	514.2
平成11年度	10,098	5,122	517.2
平成22年度	11,700	5,250	614.6

課題と今後の方向

- * 飼料基盤の強化
 - ・ 土地利用集積・団地化の推進
 - ・ 水田等既耕地における作付拡大
 - ・ 中山間地域等における飼料基盤の拡大
 - ・ 稲わら等の地域資源の活用の推進
- * 生産性及び品質の向上
 - ・ 優良草種・品種の普及、技術水準の高位平準化等の推進
 - ・ 草地整備の着実な推進
- * 飼料生産の組織化・外部化等の推進
 - ・ 地域の実情に応じた飼料生産の共同化、コントラクターの育成
 - ・ 米等に加えて飼料生産も支援できる組織の育成、高能率な機械化体系の導入等の推進
- * 公共牧場の活性化及び放牧の推進
 - ・ 放牧牛の衛生対策や放牧地の維持・管理等の総合的な指導・支援体制の整備
 - ・ 地域の土地・自然条件に適應した放牧の普及・定着

主要指標

総農家戸数の展望

平成10年度(A)	平成22年度(B)	伸び率 (B/A)
143,660戸	112,000戸	78%

農業就業人口の展望

平成10年度(A)	平成22年度(B)	伸び率 (B/A)
161,390人	137,000人	85%

新規就農者の展望

平成10年度(A)	平成22年度(B)	伸び率 (B/A)
183人	300人	164%

認定農業者の展望

平成10年度(A)	平成22年度(B)	伸び率 (B/A)
5,298人	11,000人	208%

耕地面積の展望

区 分		平成10年(A)	平成22年(B)	伸び率 (B/A)
田		61,000 h a	54,800 h a	90%
畑	普通畑	37,200	32,900	88%
	樹園地	19,000	17,800	94%
	牧草地	4,100	3,500	85%
	計	60,300	54,200	90%
耕地面積計		121,300	109,000	90%

耕地利用率の展望

平成10年度(A)	平成22年度(B)	伸び率 (B/A)
87%	100%	115%

先進的技術等の展望

区 分		先進的技術等（ は特に先進的な技術等）
作目	品目	
穀類	水稲	直播栽培技術(打込み式代かき同時土中点播)の導入 ・ 農薬散布の省力化(苗箱施薬、一発剤)等 水稲と麦・大豆・そばとの組合せによる穀物複合経営の推進
	麦・大豆	作業機械の大型化 施肥播種同時作業機の普及 乾燥調整施設の整備(大豆)
	そば	作業の機械化
果樹	りんご	県外産品種の生産拡大による品種構成適正化の推進 新規摘花剤・新規摘葉剤(開発中)の普及 着色系など優良系品種への更新 新しい化栽培によるらくらく果樹栽培の推進(M.9ガノ台木の普及)
	ぶどう	省力的房作り技術の普及 優良系巨峰(巨峰ガノ1・巨峰ガノ2)の導入 無核ピオーネやブドウ長果1の導入 施設化による欧州系品種の生産拡大の推進
	なし	南水の生産拡大と生産技術の高位平準化の推進 青なし、赤なしのシリーズ化の推進 摘蕾・摘花技術(薬剤開発中)の普及 短果枝せん定法の普及
	もも	斜立主幹形仕立ての普及 新規摘花剤(開発中)の普及 産地毎の気象条件に適合する優良品種導入の推進 光センサー選果による高品質保証販売の推進 低樹高栽培の推進
野菜	レタス	輪作体系の確立、レタス根腐病抵抗性品種の育成 省力栽培技術、省力機械(収穫機)の開発と普及 出荷計画の精度向上と出荷調整機能の強化 通いコンテナの普及 農薬の適正使用と適正施肥によるクリーンな野菜生産
	はくさい	輪作体系の確立、根こぶ病、黄化病抵抗性品種の導入 省力栽培技術、省力機械(収穫機)の開発と普及 通いコンテナの普及 用途別(加工用)品種の育成
	キャベツ	輪作物(レタス根腐病対策)として推進 省力栽培技術、省力機械(収穫機)の開発と普及
	セルリー	施設化による春作、秋作の生産拡大 萎黄病抵抗性品種、耐暑性品種の育成 減肥栽培の導入(側条施肥・養液土耕栽培)
	すいか	優良苗供給体制の確立(切成型接木苗) 異科作物との輪作(黒点根腐病対策)
	トマト きゅうり	優良苗供給体制の確立(切成型接木苗) 省力化技術(養液土耕栽培)の導入
	アスパラガス	優良系統の選抜、改植の推進

区 分		先進的技術等（ は特に先進的な技術等）
作目	品目	
花き	カーネーション	養液土耕栽培の普及 選花機の導入
	バラ	選花機の導入
	トルコギキョウ	養液土耕栽培の普及 オリジナル新品種の普及
	アストロメリア	地中冷却技術の普及 選花機の導入
	シクラメン	新品種の普及 ムービングベンチシステムの普及
	きく	移植機及び選花機の導入
	りんどう	オリジナル新品種の普及 移植機及び選花機の導入
きのこ	えのきたけ	分業生産システム等の推進や生産出荷施設等の充実による生産基盤の強化 大口径ビンの普及 1株包装の普及
	ぶなしめじ	栽培期間短縮技術の普及 高栄養培地による増収
畜産	乳牛	牛群検定の実施による酪農経営の効率化 受精卵移植技術及び検定済種雄牛の活用による優良雌牛群の整備 牛群ドックの活用による飼養管理の改善
	肉牛	育種価に基づく優良肥育素牛の選定（黒毛和種） 繁殖基盤の一層の強化（優秀な種雄牛造成・繁殖雌牛の導入）
	養豚	シンシュウL等優良種豚の活用 SPF豚、人工授精技術の普及
	飼料作物	消化性、栄養性等に優れた品種の育成 奨励品種の普及

(参考)

「食料・農業・農村基本計画」の主な概要

- (1) 基本計画の策定 平成12年3月24日(閣議決定)
- (2) 基本計画の位置付
「食料・農業・農村基本法」に掲げられた基本理念や施策の基本方向を具体化し、それを的確に実施するため政府が基本法に基づき策定する計画
- (3) 計画期間
10年程度を見通すが、情勢の変化等によりおおむね5年ごとに見直し。
- (4) 食料、農業及び農村に関する施策についての基本的な方針
基本法に掲げる4つの基本理念の実現を図るため、食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進する。
 - ア 食料の安定供給の確保
 - イ 多面的機能の発揮
 - ウ 農業の持続的な発展
 - エ 農村の振興
- (5) 食料自給率の目標
 - ア 目標年次 平成22年度(2010年度)
 - イ 基本的な考え方
食料消費及び農業生産に係る課題を明らかにし、計画期間内にこれらの課題が解決された場合に実現可能な水準を自給率目標として設定する。
 - ウ 農業生産の努力目標
米、野菜、果実、肉類などの主要品目について、課題が解決された場合に実現可能な水準を生産努力目標として策定し、全国段階のものに併せ、地域段階での策定を促進する。
 - エ 食料自給率の目標
供給熱量総合自給率目標 平成22年度：45%(10年度：40%)
品目別食料自給率、穀物自給率目標等
- (6) 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策
 - ア 食料の安定供給の確保に関する施策
 - イ 農業の持続的な発展に関する施策
 - ウ 農村の振興に関する施策